

最近重みの研究をガチり始めたので、丁度良いからAttention is All you needの中のあの図(下図です)も理解できるんじゃないかなってことで書いてみると致しました。

まず初めに....重みの中でやっているであろう「自己評価」という処理について書いてみるで。

自己評価=フィードバックはどこで用いてるんか?

→学習時に損失関数を用いて出力と正解ラベルの差を計算して  
その誤差を逆伝播(Backpropagation)で重み更新を行う、とい  
う方法なんだけども。

もっといと、図中の「Softmax」という出力と正解との誤差  
(クロスエントロピー損失)を計算し、その誤差から生じる勾配を  
エンコーダやデコーダの各層へ逆伝播してパラメータを更新す  
るってことをしてるのね。

図の中で主だって書かれてるんが「推論」という過程なんよ  
ね。

「入力(文や画像など)をモデルに入力する→各層を順に通して前  
向き計算(Forward Pass)を行う→出力を得る」という流れで  
やってるんだけどもさ。

何となく思ったのが、脳の中では「出力ベースの入力(目に見えたモノ全部が対象)⇒推論 + 自己  
評価⇒出力」という流れで行ってるんやろうね。多分このモデルで正しいと思うのよ。

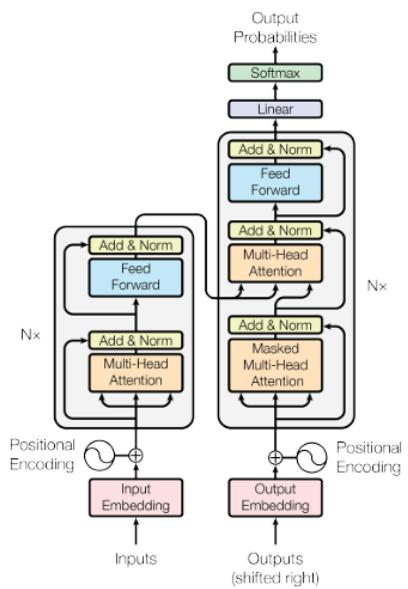


Figure 1: The Transformer - model architecture.